

〔編集後記〕

今回、人間文化研究所紀要『人間文化』第三二号が無事発刊する運びとなった。論文八本、研究ノート二本、翻訳・訳注三本、そして二つのプロジェクト研究が掲載され、充実している。内容は宗教、歴史、日本文化、英米英文学、そして、グローバルと多種多様な専門を生かしたものとなっている。理工系に比して、文化系は工業、経済重視の日本政府、経済界の要望で旗色がよいとはいえない。また、学生就職状況の厳しさがある程度緩和したとはいえ、不十分であり、やはり文化系に比して理科系が優位に立っている。こうした状況下で少子化現象もあり、文化系を主とする大学、学部は困惑しているといえよう。だが、人間は複合体である以上、理工系だけの知識で人生を歩むことができないばかりか、人生を歩む上で、あるいは生老病死を考える上で、さらに生活を充実させるためにも文化系の発想は是が非でも必要である。換言すれば、理工系や医学に従事する人々（患者のみならず医者自身）も文化系の発想を身につけることが肝要である。

ここで日本、アジア、さらに世界全体を見ると、混乱の度を増し、他者に対する寛容性を失い始めている。国家連合による空爆、誤爆、それに対するISのテロ。これをベトナム戦争時期と比較すると、アメリカ軍兵士は北爆後、安全な母国に帰還することができた。現在では、フランス軍などはシリアなどへの空爆後、帰還する安全なはずの母国がテロに見舞われている。かくして、世界中に人命軽視の状況が現れた。また、大規模な地震、津波、竜巻も頻発し始めた。果たして人間はどう生きるべきなのか。このことを考える際、文化系の学問は大きな力を発揮するはずだ。そして、五つの柱・学科からなる愛知学院大学文学部・人間文化研究所も複合的な視点からピピッドに考察するダイナミックさを持つていると確信する。ところで、所員熊田氏が入院したと聞いた。彼の一日も早い病状回復を願うとともに、皆さんも健康にはくれぐれも留意してほしいと思う。最後に本紀要発刊のために編集作業に尽力してくれた人間文化研究所の見尾谷さん、及び㈱インシュアの平林氏に感謝したい。

（菊池一隆 記）

人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 第31号

平成28年9月10日印刷

（非売品）

平成28年9月20日発行

編集兼発行者

愛知学院大学人間文化研究所長 神山重彦

〒470-0195

愛知県日進市岩崎町阿良池12番地

電話 0561 (73) 1111 (内線1875番)

印刷 株式会社インシュア